

1 + 1 + 1 + 1 + 1 = ???



大阪府医師会理事

前川 たかし

足し算です。人と協働する時に、いつも考えることです。5人が協働作業をしますとします。5人が牽制しあってメンバーそれぞれの力を出さなければ、足し算しても0.5にしかならないこともあります。自分は何でも分かっていると思い込んでいる人が協働を支配すると合計は1にしかなりません。メンバー全員が職業倫理に動かされたら、なんとか5にできるかもしれません。しかし、これを6にも8にも10にもしたいものです。メンバーの話をお互いによく聞き、啓発され自身にも新しいアイデアが生まれ、提案し議論しあいながらさらに新しい発見が生まれる。このような楽しい協働を持ちたいものです。

進化人類学の本などを読んでいると、人間の知性の特性は社会的な学習能力にあるという説があります。空間認識、計算、因果性認識などでは、オランウータンやチンパンジーと差はない。際立って優れているのは社会的学習能力だといいます。他の個体が自分と同じ個体であるという「共感」をベースにして他の個体から学ぶのです。チンパンジーの祖先と分岐したばかりの700万年前、私達の祖先は、個体としては極めて弱い被捕食者でした。お互いを守りあうことを通じて「群れ」の中で生存し、群れ全体の生存を模索しなければなりません。様々なあり方が試され、失敗による膨大な数の絶滅を代償にして、群れとして生き延びるすべが進化してきました。共感を基盤として協働してきたのです。協働し、ともに生きるためのルールとして、我々が身に付けている倫理ともいえるような「心のベクトル」は長い

間の進化・淘汰の産物です。

氷河期の森の中に生きていたネアンデルタール人は、狩猟者としてのフィジカルな強さはもとより、我々よりはるかに容積の大きな脳を持っていました。しかし、ネアンデルタール人の矢じりは、数万年の間にさほど進化していません。対照的に同時期のホモ・サピエンスの矢じりは、大きく進化しています。また、使う道具の素材が非常に広範囲の交易の存在を示しています。集団で協働する中で学び、集団間でも学びあい、継承し、進歩していったことがうかがえます。

新しい執行部が船出をします。力を合わせることの大切さを思います。大阪府医師会としてOne teamとなりましょう。地区医師会の先生方同士の情報交換や討議を通じて新たな価値が創出できればと思います。また歯科医師会、薬剤師会、看護協会、介護支援専門員協会……等々、枚挙にいとまのない連携先との協働で大阪府民の生活を守りたいと思います。もちろん行政も我々の仲間です。どの協働でも足し算の結果が算術的な和以上のものになるようにしたいと思います。そのことを支える実務の基盤は大阪府医師会の事務局の方達が担っています。仕事を積み重ね、文化として継承していくことの基盤も事務局にあります。未来の社会を見つめて、教えられ、ともに学び、後を託す。そうして進化していく大阪府医師会でありたいと思います。地区医師会の先生方の御支援をお願いいたします。

これからが本番です。